

いずみ保育所 発達教育支援センターが開所しました



開所式のアトラクションで、元気いっぱい振り付きの歌を披露する旧千代田保育所の子どもたち

いずみ保育所（旧千代田保育所）と発達教育支援センター「すきっぷ」が4月1日、開所しました。隣接する本庄ふるさとフラワーパークの緑を有効に活用し、木材を多く取り入れた建物の中、保育所では、通常保育のほかに一時預かり保育・病後児保育・子育て支援センターの特別保育事業を行います。また、すきっぷは、発達が気になる子どもを総合的に支援する全国でも数少ない施設で、保育所と併せて子育て支援に力を入れる市の中心的な施設になります。

特別保育は5月6日から

通常保育のほかの新しい特別保育事業は、5月6日（木）から始まります。

▽一時預かり保育

保護者の病気や冠婚葬祭などで一時的に保育を必要とする小学校入学前までのお子さんをお預かりします。

利用料金 1日 2,000円

▽病後児保育

市では初めての取り組みです。病気がけがの回復期にあり、集団保育が困難で、保護者が勤務などの理由により家庭で保育できない市内在住の生後6か月から小学校3年生までのお子さんをお預かりします。

利用料金 1日 2,000円

▽子育て支援センター

親子で自由に遊び交流できる場です。育児に関する相談や情報提供のほか、育児講習会なども開催します。

利用料金 無料

※利用時間や申し込み方法など詳しくは、子育て支援課（☎25-1128）又はいずみ保育所（☎22-4891）へお問い合わせください。

施設の概要



所在地	本庄市小島5丁目5番45号
敷地面積	5,562.94㎡
建築面積	1,436.62㎡
延床面積	1,292.48㎡
保育所定員	90人



3月26日、開所式でのテープカット

子どもたちの すこやかな成長を願って



早期のケアが大切です



発達教育支援センター「すきつぷ」は、発達が気になる子どもたちへの支援を総合的に行う施設です。これまで発達に課題を抱える児童や保護者に対しては、保健・医療・教育・福祉などそれぞれに支援を行ってきましたが、すきつぷが完成し、ここに関係機関の専門スタッフが集まることで、一貫性・継続性を持った質の高い支援ができるようになりました。

調査の方法により結果も異なりますが、市が平成20年度に確認している「気になる子」は、1,174人であり、中学生までの子どもの約11%にあたるという数字が出ています。

問題を抱える児童が、集団の中で生活していくスキルを身につけていくためには、しっかりとした行動分析に基づく援助が必要であり、発達の

ねじれが大きくならないうちに、身近で専門的な視点での相談・支援を受けられる施設があることは大きなメリットになります。

すきつぷでは、保健医療的な面、教育的な面、子育て支援的な面、福祉的な面など各分野で連携を取りながら途切れない支援を行い、発達が気になる子どもたちが自立し、社会の担い手になるまで見届けていきます。

専門スタッフを配置



すきつぷには、次のような専門スタッフが配置され、各種の支援を行っていきます。

- ▽保健師4人▽教育委員会指導主事1人(週のうち数日)▽家庭児童相談員1人(週3〜4日程度)
- ほかに、医師・臨床心理士・作業療法士・言語聴覚士も起用します。
- ※お問い合わせは、発達教育支援センター(☎055550)へ。

すきつぷのアドバイザー 立教大学 大石 幸二 教授



このような施設は、仙台市など政令指定都市で計画設置されてきました。しかし、本庄市の試みは先駆的で、これまでの本市関係者のご尽力の賜物だと思えます。今後この施設を拠点として、関係機関との連携を一層深め、子どもたちの育ちと学びの支援に邁進していただきたいと存じます。

いずみ保育所の名付け親 及川 久美子 さん(本庄1丁目)



際限なく湧き出る清らかな泉の風情を、子どもたちの健やかな成長と、先生はじめ親や地域の人たちのあふれる程の愛情の支えなどを想像し、「いずみ保育所」にと思い応募しました。環境もこの上ない、素晴らしい施設の名付け親になれて光栄です。

施設の部屋



ホール…行事を行うほか、雨の日は遊び場にも。
光庭…プールも置けるデッキスペースです。

相談ルーム月・星…発達支援の相談を受けます。

プレイルーム太陽…療育的支援を行います。

※ほかに、保育室・病後児保育室・一時保育室・子育て支援センター・えほんコーナーなどがあります。